

---

# 婦人会報

---

立教186年 **2** 令和五年  
月 2023年



天理教婦人会旭日支部

通巻524号

# 三月例会案内

日時 三月五日(日) 午前十時

場所 旭日大教会  
内容 教祖祭

お願いづとめ  
お手なおし(二下り目・二下り目)  
お弁当配布

※ 社会状況により変更になる場合がございます。

## 三月例会役割

扨者	藤井 綾子	関 薫
賛者	山本 ひとみ	辻 花子
指図方	南本 サツエ	



## 二月月次祭炊事当番

係員 松田 浩美 柘田 道代

※9時までにごエプロン・三角巾を持参の上  
お越し下さい。

## 女子青年例会案内

日時 二月十九日(日) 十時より

場所 旭日大教会

内容 女鳴物勉強 おやつ作りなど

※琴爪のある方はご持参下さい。

※社会状況により変更になる場合がございます。

## 訃報

▼大野美分教会 二代委員長

木村 貞子先生(享年九十二歳)

一月十二日にお出直しされました。

謹んでご生前のご遺徳をお偲び申し上げます。



# 教祖年祭三年千日踏み出しの年に思う

高天委員部

関

薫

現在五十一歳の私にとって、はっきりと記憶にある教祖年祭は、教祖百年祭です。当時、私は天理中学二年生でした。三代真柱様の「教祖百年祭の歌」があちらこちらで流れ、現在は本部西2駐車場となっている昔の天理中学正門前で、帰参者の方に温かいお茶をふるまうひのきしんをさせて頂いたことを覚えています。

教祖百十年祭の時は、天理高校二部で教職についており、本部管轄の帰参者受け入れ施設で、同僚とひのきしんさせて頂きました。

それから十年間は、退職、結婚、出産、祖父の出生と多くのことがありました。そして、教祖百二十年祭の年に、主人が高天分教会会長に就任させて頂

き、私自身も責任を持って動かさせて頂かなければと身の引き締まる思いでした。大教会月次祭おつとめに出させて頂くようになり、婦人会でも常任委員の役を頂き、緊張の中、無我夢中で御用をさせて頂く日々だったと思います。

平成二十七年、大教会創立百二十周年記念祭執行。平成二十八年、教祖百三十年祭執行。平成三十年、婦人会旭日支部婦人会長様御臨席總會開催。大きな祭典行事が次々と行われました。

そんな中、御臨席總會の数ヶ月前、右乳房に何かグリグリしたものがあつた気がしました。「ああ、これ、もしかしたらなあ」と思いながらも、なかなか病院に行く決心がつかず、「總會が終わつたら…」と先延ばしにしていました。無事に御臨席総



会をつとめさせて頂き、いよいよ言い訳もできなくなり、受診に行きました。

色々な検査をして、結果は大きさ二センチ大の悪性腫瘍。切除手術をすることになりました。入院は約一週間。その間、娘は学校を休んで、家のことをしてくれました。また、その後抗がん剤治療も続き、ほぼ一年ほどは家族や周囲の方々に頼らざるをえない日々でした。

私は自分を、先々まで計画を立てて、準備を積み重ねていかないと気が済まない性格だと思っっています。そして、それを周りにも押し付けてしまいがちです。良かれと思つて必死に突つ走つて来ましたが、それではいけないのだと、この経験で考えさせられました。自分が無理な時でも周りにはちゃんと動いてくれている。もつと周りペースを合わせて、一緒に動いていかなければならないと感じました。自分が全部やってしまうことで、周りの人の機会を奪つ

てしまうことにもなるのだとも教えて頂きました。また、先のことばかりでなく、その日その日を喜んで感謝して通っているかということも大切なのだと思います。

『諭達第四号』に、教祖年祭を勤める意義は、仕切つて成人の歩みを進めることであるとお示し下さっています。また、『天理時報』新春インタビューにて表統領先生は、成人とは成程の人に近づいていくこと。成程の人とは、この人に言われたら素直に聞ける、あの人に頼まれると断れない、というような人であるとお話下さっています。

なかなか元の性格は変わりませんが、教祖百四十年祭に向かうこの旬に、少しでも「成程の人」に近づいていくことを目標に通らせて頂きたいと思えます。周りの方々と話をしながら、一緒に動かしてもらい、共に「育つ努力」をさせて頂けたらと思えます。



# 「おつとめの心構え」

vol.10

今回は「六下り目」  
について述べさせ  
ていただきます。



ニハ

●六下り目（慶応三年）【参考文献『みかぐらうたの世界をたづねて』道友社編】

◎一ツ

ひとのこころといふものハ  
うたがひぶかいものなるぞ

一ツ

ひとの心というものは、まことに疑い深いものである

◎二ツ

ふしぎなたすけをするからに  
いかなることみさだめる

二ツ

不思議なたすけをするうえからは、どのようなことも見極める

◎三ツ

みなせかいのむねのうち  
かぐみのごとくにうつるなり

三ツ

世界中すべての人の心の内は、合わせ鏡に映るようにみな見えるのである

◎四ツ

ようこそつとめについできた  
これがたすけのもとだて<sup>※1</sup>や

◎五ツ

いつもかぐらやてをどりや  
すゑ<sup>※2</sup>ではめづらしたすけする

◎六ツ

むしやうやたらにねがひでる<sup>※3</sup>  
うけとるすぢもせんすぢや

◎七ツ

なんぼしんぐしたとても<sup>※4</sup>  
こゝろえちがひはならんぞへ

四ツ

よくぞ教え通り、つとめを勤めて来た。こ  
れこそがたすけの根本である

※1 「もとだて」

|| 本立、元立「根本、起源、基、  
起り、原因、種」

五ツ

いつも、かぐらやてをどりを。末では珍し  
いたすけをする

※2 「すゑ」

|| 時間的な意味、またはちばを  
元とすれば教会（地方）

六ツ

むやみやたらに、たすけを願つて来るが、  
受け取り方もいろいろとなる

※3 「むしやう」

|| 無闇、しばしば、自制心なく

七ツ

どれほど信心したとしても、（神の心に添  
わぬ）心得違いがあつてはならんぞ

※4 「こゝろえちがひ」

|| 心得を誤ること。道理に外れ  
た行為や考え方をすること。  
思い違い。誤解

◎ハツ

やつぱりしんどくせにやならん  
こゝろえちがひはでなほしや<sup>※5</sup>

八ツ

やつぱり信心しなければならぬ。心得違  
いは、(一から)出直しである

※5 「でなほしや」

|| 「最初から改めてやり直す」

意味の出直しと解するがよいと  
思います。

◎九ツ

こゝまでしんどくしてからハ  
ひとつのかうをもみにやならぬ<sup>※7</sup>

九ツ

ここまで信心したからには、一つの効能も  
みなければならぬであろう

※6 「してからハ」

|| 親神の述懐して来たからは。

※7 「みにやならぬ」

|| 見せてやらなければならぬ  
という、親神の親心のあらわれ  
た言葉

◎十ド

このたびみえました<sup>※8</sup>  
あふぎのうかどひこれふしぎ

十ド

ついに、このたび一つの効を見ることので  
きました。扇の伺いの、なんと不思議なこ  
とか

※8 「あふぎのうかどひ」

|| 教祖自ら多数の人に渡された  
「扇のさづけ」のこと

※神一条の信心、神様を知る境地について歌われています。

つとめとさづけについて触れ、たすけ一条のあり方こそ真の信心であることを諭されています。その上で、おさづけの  
理を頂いた人間の喜びの心情を示されています。

一ツ・二ツ・三ツは「人の心」、四ツ・五ツは「つとめ」、六ツ・七ツ・八ツは「信心」、九ツ・十は「さづけ」と、内  
容のまとまりが感じられます。



諭達第四号発布を戴いて

# 諭達の中のお言葉を説明しよう!

～お言葉の意味を知ってる?～



## 旬刻限

天理教立教の時。天保九年十月二十六日。

元はじまりのお話によれば、人間を創られた時、夫婦の「ひながた」となったのが「うを」と「み」です。この「うを」と「み」に対し「最初に産み降ろす子数の年限（人間元はじめ出しより数えて九億九万九千九百九十九年）がたったなら神として拝をさす」（教典第三章）と親神様が約束された時を意味します。

その年限が到来したのが天保九年十月二十六日です。

## 月日のやしろ

教祖のお立場を示す言葉です。

天保九年十月二十六日、親神様は中山みき様を「月日のやしろ」とお定めになりました。月日とは親神様を表す言葉で、やしろとは神様がお鎮まりになるお社のことです。つまり「月日のやしろ」というのは、親神様がお鎮まりになった教祖のことです。教祖のお心は、親神様のお心そのものであり、そのお言葉も親神様のお言葉です。

参考文献：天理教教典・ようぼくハンドブック・心をつなごう（奈良教区婦人会）  
教えをもとに（天理教婦人会）

◎次回は諭達2ページ目のお言葉について紹介させていただきます。



# 立教百八十六年委員長講習会（第五十回）のご案内

日時 令和五年二月二十五日（土）

午前九時十五分 受付

三十分 開講 おつとめ

場所 旭日大教会

内容 大教会長様ご挨拶

支部長挨拶

おつとめ（男鳴物） 勉強会

参加費 一、〇〇〇円

持ち物 ハッピー（自教会）・筆記用具・（持参できる方は）笛と小鼓

※必ずマスクを着用して下さい。

※宿泊されませ方は各自で大教会事務所までお申し込み下さい。

※委員長が欠席の場合は必ず代理の方に出席頂き、直屬を通して

その旨をご報告下さい。

※昨年の委員長講習会教理勉強会のまとめの資料、女鳴物（琴）の資料を、当日配布致しますので、ファイルに追加して下さい。

9:15	受付	1階ロビー
9:30	開講 おつとめ 大教会長様ご挨拶 支部長挨拶 各係より連絡	神殿
10:30	おつとめ勉強会 (全体説明)	
11:00	各班にて鳴物勉強	1号館各部屋
12:00	昼食	
12:30	各班にて鳴物勉強	
14:45	閉講	
15:00	解散	

# 皆楽しみばかり。楽しみや

「これから先というのは、何を聞いても、  
どのよの事を見ても、皆楽しみばかり。  
楽しみや。」

(おさしづ 明治20年2月24日)



発行所	発行者	発行日
天理市田井庄町一二八 天理教婦人会旭日支部	岡本道子	令和五年二月五日